

日本多施設共同コーホート(J-MICC)研究

平成20年度第2回運営委員会 議事録

日時 平成20年12月15日(月)10:30~12:30

場所 名古屋大学医学部附属病院 中央診療棟3階 講堂

出席者 主任研究者(浜島信之)、三上春夫、田中英夫、鈴木貞夫、喜多義邦、渡邊能行、古野純典、田中恵太郎、嶽崎俊郎、有澤孝吉、丸山英二、橋本修二、江口英孝、玉腰暁子、増井 徹、松井健志、松尾恵太郎、鈴木勇史、川瀬孝和、高嶋直敬、Choudhury Turin Tanvir、尾崎悦子、桧垣靖樹、西田裕一郎、新村英士、中村昭彦、上村浩一、日吉峰麗、武田英雄、嵩下 賢、高見栄喜、川戸美由紀、片瀬史朗、大石早知絵、深田裕子、近藤高明、飯田健太、中央事務局(若井建志、内藤真理子、菱田朝陽、森田えみ、石田喜子、岡田理恵子、川合紗世、冨田耕太郎、木村悦子、増田まゆ子、服部秀美)

1. 主任研究者より、研究協力者の募集状況、平成19年度・20年度の業務日程、名古屋大学医学部倫理委員会における研究計画の審査状況が報告された。
2. 中央事務局より、本年11月末までにJ-MICC研究本体で36,000名以上、J-MICC連合を加えると約47,000名の研究協力者が募集されたことが報告された。
3. 中央事務局より、コントロール検体の保管、測定状況が報告された。また横断研究のDNA抽出時に明らかになった問題点についての報告と、その対策案が提案された。
4. 中央事務局より、これまでのJ-MICC研究に関する論文発表、学会発表の報告がされた。論文発表、学会発表については、コーホート研究実施グループ独自の研究分を含め、中央事務局に報告することが確認された。
5. 主任研究者より、J-MICC研究の非公開扱いの資料を他研究で使用する際、運営委員会で承認する原則が確認された。また現在J-MICC研究との連携を検討している2研究(山形大学グローバルCOE「分子疫学の国際教育研究ネットワークの構築」および名古屋大学の北海道八雲町住民検診受診者を対象とした疫学研究)については、他の研究者が開発した項目の使用について開発者に承認を得た上で生活歴調査票を使用すること、および手順書を使用することが了承された。
6. 中央事務局より、理化学研究所で遺伝子型を決定しての横断研究実施のため、横断研究対象者を含む集団のデータの提出を、データクリーニングを行った上で早急に提出するよう依頼がなされた。
7. 中央事務局より、追跡調査情報の提出時期および提出形式について確認、依頼がなされた。また、第1回の死亡小票閲覧申請が本年10月17日に承認され、平成18年末までについて保健所での死亡小票閲覧作業、中央事務局への追跡データ作成作業を5施設で実施中であることが報告された。また来年度に平成19年分の申請をするための事前折衝の段階であることが報告された。それに伴い、来年5月までに平成19年の死亡者の同定を行うこと、および全調査地区の申請が出そろうまでは毎年申請し、その後は2年毎に申請する予定であることが、追跡調査ワーキンググループで承認されたことの報告がされた。次回申請に死因種類を含めるのかとの質問に対し、検討の結果、含めないこととした。
8. 主任研究者より、中央事務局に保管されているbuffy coatを用いた、生活習慣・検診結果と遺伝子多型との関連に関する横断研究の、論文作成の分担方法について案が示された。データ配布前に分担を決め、提案したテーマについては1年を目安に論文を完成させること、論文を投稿するまでは次の論文のfirst authorにはなれないという原則が確認された。テーマは遺伝子多型と表現型の組合せで提案することとした。本年度中に理化学研究所で測定が予定されている遺伝子多型のリ

ストが提出され、これをもとに本年末までに各コーホート研究実施グループがテーマを提案し、重複した場合には、重複したグループ間で相談、もしくは主任研究者が調整することが承認された。

9. 中央事務局より、J-MICC連合である九州大学COEコホートの検体を、九州大学予防医学分野より名古屋大学にあるJ-MICC研究中央事務局に、本年7月と8月の2回に分けて搬送した報告がされた。その際、DNAの一部を散乱させてしまったことをきっかけに、検体のリストと実際の検体が異なるところがあることが判明した。それは九州大学、名古屋大学のどちらかにしかない検体であったため、両大学間で足りない検体を輸送して、本年9月30日に終了したことの経過が報告された。